



ま ちかど インタビュー

ふるさとへの帰還に向けての想い 9月30日緊急時避難準備区域が解除

3月11日に発生した大地震による大津波が起因して、福島第一原子力発電所の深刻な事故が発生してから10ヶ月が過ぎ、町は平成24年中の全町民の帰還に向けたライフラインの整備をはじめ、本格的な除染作業も開始しました。

そこで、町民の帰還に当たり、ふるさとへの思いや心配なこと、さらには、行政に望むことなどを伺いました。



根本 哲子さん
(下北迫・新町)

帰還を勧めるとのことですが、いかに除染をしたとしても、目に見えない放射能に対する不安や恐怖は消えません。

3月11日以来、避難を転々と続け、仮設住宅での生活を始めてから半年が過ぎ、その間広野町や我が家のことを考えない日はありませんでした。

町は、今年中に全町民の

地震だけで、あの原発事故さえなかったらと、それが悔しくてなりません。

孫たちが遊びに来て、母が縁側で日向ぼっこをしている平凡な日常が、この家庭にもある広野町に戻ることを痛切に望んでいます。



岡田 周造さん
(下浅見川・本町)

避難が長引くにつれ、地域や家族の絆が薄れていく気がして心配です。

まず、津波等で被災した世帯の住居を第一に、除染は言うまでもなく、学校・商店・医療機関等の再開とともに、若者たちが働ける場を創り出すことも重要なことと考えます。

さらには、双葉郡の南の玄関口としての地の利をいかし、他町村の人たちが定住できるように宅地造成をするなどの施策を講じ、魅力的な町づくりをしてほしいと思います。

編集後記

昨年は、かつて経験したことのない大地震、大津波、さらに重大な原発事故で避難生活を余儀なくされ、戦後最悪の年になってしまいました。

本年は辰年です。竜はとつても縁起の良い動物とされています。

た広野町議場で9ヶ月ぶりに開催されたことは、帰還に向け、力強く第一歩を踏み出したと感じました。町民の皆様の、幸多き「年」になりますよう、心よりお祈り申し上げます。
(北郷幹夫)

この新しい年に、我々議員は、町民の皆様のご指導とご支援のもと、我が町の復旧・復興に向け、新たな光をともす1年になるよう取り組んでまいります。

- 発行・編集責任者 議長 鈴木紀昭
- 議 長 鈴木紀昭
- 広報委員会
- 委員長 渡邊正俊
- 副委員長 北郷幹夫
- 委 員 塩 史子
- 委 員 渡辺久長
- 委 員 遠藤 智
- 委 員 畑中天子
- 委 員 小磯利雄

次の定例会は3月です

